

# 大阪史編纂所だより

大阪市史編纂所（発行）  
〒550-0014 大阪市西区北堀江 4-3-2

第44号

大阪市史料調査会（編集）  
大阪府立中央図書館内 TEL06-6539-3333

## ●人形浄瑠璃 文楽の番付

今年は春から大阪の芸能界でおめでたい出来事が続いています。1月には歌舞伎の四代目<sup>がんじろう</sup>中村<sup>しゅうめい</sup>鴈治郎の襲名、そして4月には文楽の人形遣い吉田<sup>たまため</sup>玉女さんが二代目吉田玉男を襲名します。

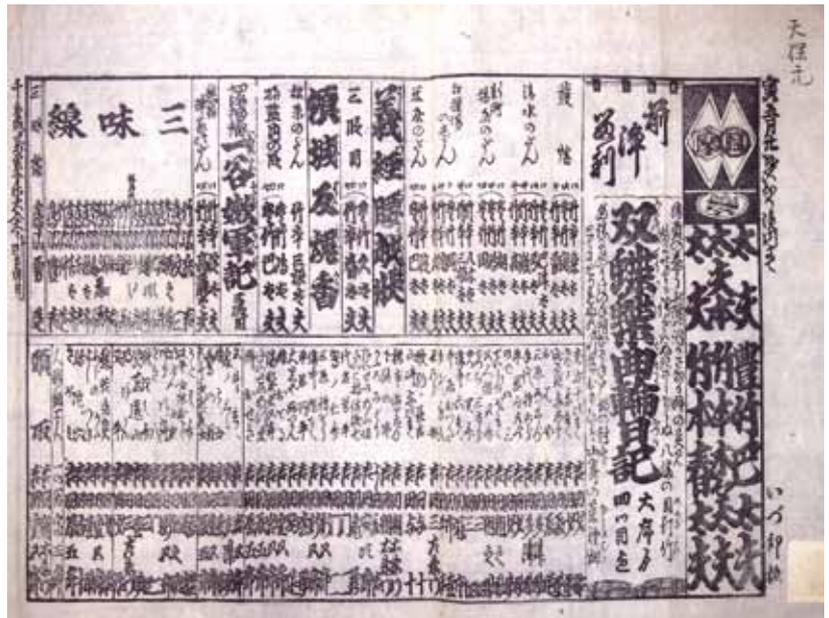
その襲名披露となる国立文楽劇場4月文楽公演では、「一谷<sup>いちのたにふたぼんき</sup>嫩軍記」が興行されます。「一谷嫩軍記」（以下「嫩軍記」と略）は『平家物語』で知られる熊谷直実<sup>くまがいなおざね</sup>と平敦盛<sup>たいらのあつもり</sup>の説話を脚色した時代物浄瑠璃の名作で、宝暦元年（1751）、大坂の道頓堀にあった豊竹座で初演されました。以来、260余年を経た現在でも上演される人気作品です。

さて、大阪市史編纂所で所蔵する文書群のなかに、江戸時代の芝居番付（歌舞伎や人形浄瑠璃の興行内容を書いたもので、上演する狂言の内容や出演者を知らせる印刷物）があります。では、その中から天保元年（1830）に「嫩軍記」が興行された際の番付をご紹介します。

まず、番付右端の欄には、「紋下」と呼ばれる一座の代表者名があがっています。次に、興行内容です。前浄瑠璃が「双蝶<sup>ふたつちようちようくるわにつき</sup>々曲輪日記」、続いて番付上段に「義経腰越状<sup>よしつねこしごえじょう</sup>」と「傾城反魂香<sup>けいせいほんごんこう</sup>」が入り、切浄瑠璃が「嫩軍記」と、4本立ての豪華な構成になっています。また、上段には各演目の上演場面とそれを語る太夫の名前、さらに三味線メンバーの名前が示されています。そして、下段にあるのが人形遣いの配役です。ちなみに、「嫩軍記」からはみどころの多い「熊谷陣屋の段」が上演されていますが、語りは口が竹本淀太夫、切が竹本高麗太夫。人形遣いは、熊谷直実を吉田才治が、熊谷の妻・相模を吉田辰五郎が遣っています。特に相模役の吉田辰五郎（二代目）は、文化・文政期から天保期にわたって女房遣いの第一人者だったようです。

ところで、番付欄外に「いなり境内にて」とあります。これは興行場所を示したものですが、「いなり境内」とはどこをさすのでしょうか。

寺社の境内で興行される歌舞伎や人形浄瑠璃を「宮地芝居」といいます。江戸時代後期には、道



人形浄瑠璃の番付 天保元年（1830）大阪市史編纂所蔵



拡大図

境内南東角（画面中央下）の小屋に「芝居」と記された小屋がある。  
『摂津名所図会』 大阪市史編纂所蔵

頓堀の芝居に比べて気軽に見物できる宮地での芝居が人気を博し、天満天神社・坐摩社・御霊社・博労稲荷社・和光寺などが、その興行場所でした。そのうち「いなり境内」は、博労稲荷社（現中央区難波神社内）をさします。ここはまた「文楽」の名前の由来となった植村文楽軒（二代目）が「文楽の芝居」を始めたことで知られています。

寛政10年（1798）に刊行された『摂津名所図会』<sup>せつづめいしよづえ</sup>を見てみましょう。同書には、上難波仁徳天皇社（博労稲荷社）の項目に、市中の繁華な場所であるため常に参詣人が多く、芝居のほか見世物や講釈などの興行で賑わっていたことが記されています。さらに、境内を描いた絵図にも芝居小屋が見受けられます。天保期（1830～）になると、境内の北門では歌舞伎が、東門では人形浄瑠璃の興行が行なわれていたようです。

ところが、このような宮地芝居は、天保の改革によって天保13年（1842）から安政4年頃（1857）まで禁止されてしまいます。宮地での興行が多かった人形浄瑠璃の関係者にとっては、厳しい時期となりました。

人形浄瑠璃 文楽の歴史を眺めるとこのような苦難を幾度も乗り越え、現在まで続いている芸能であることがわかります。その技芸は師匠から弟子へと引き継がれていきますが、それを見守る観客としても、大阪の文化を継承していきたいものです。

（内海寧子）

## ●江戸時代の大坂の妖怪

この数年、アニメやゲームの影響で子供だけでなく、大人にも妖怪ブームが広がっています。アニメにはかわいらしい猫の妖怪や、ぬりかべ、一反もめんなどをアレンジした、大人たちにもなじみのある妖怪が多数登場しています。昔から妖怪の少しコミカルな容姿と性格は、多くの人々に恐がられながらも親しまれてきました。そうした妖怪の中で、今でもよく知られているのが河童です。河童と聞くと田舎の川に生息しているイメージがありますが、江戸時代の大坂にもいたという伝承があります。

元禄11年（1698）から同14年（1701）にかけて編纂・刊行された摂津国の地誌『摂陽群談』<sup>せつようぐんだん</sup>には、神崎川筋の三津屋村（現西淀川区）にあった「河虎濟」という名前の渡し場に関する記述があります。それによると、昔よりこの渡し場の水底には「河太郎」、つまり河童が住んでいました。その河童は、幼い子供をつかまえるので、村人たちは河童を捕らえて殺害しました。ところが、河童の仲間達が怒ったため、村人たちは川岸に祠を建てて河童を祭り、そこを「河虎宮」と名付けました。その祠の名前が渡し場の名前になったと伝えられています。河童のように現在でもかわいら

しいキャラクターとして描かれる憎めない妖怪が、当時の大坂にいたという伝承には何かロマンを感じますが、その一方でおどろおどろしい不気味な妖怪についての話も伝わっています。

江戸時代の大阪を代表する浮世草子の作者として有名な井原西鶴は、貞享3年（1686）刊行の『好色五人女』という作品の中で、天満（現北区。ただし、曾根崎辺りまでを含めた現在の天満よりも広い範囲）にいた「化物」（妖怪）について記しています。そこには、「曾根崎の逆女」（深夜に逆さまにぶら下がり窓からのぞいている真っ白い着物を着た若い女）、「十一丁目のくびしめ縄」（夜更けに歩いていると空中からおりてきて首にまきつく蛇のような縄）、「川崎の泣坊主」（泣きながら人に近づき不吉な予言をする子供）、「池田町のわらひ猫」（夜中に自分の姿に見とれている女性の鏡に映り込み笑う猫）といった、どれもアニメに出てくるような愛嬌のある妖怪とはほど遠い存在です。西鶴は、こうした妖怪について、「是皆年をかさねし狐狸の業ぞかし」（これらは全て年齢を重ねた狐や狸の仕業である）としています。妖怪やそれに化ける狐・狸が実在したかどうかは別にしても、少なくとも当時の大阪の人々の間には、そうした存在についての噂話が広まっていたことは間違いないでしょう。

それを示すように、このほかにも大阪市内には妖怪に関する話が伝わっています。怖い妖怪だけでなく、妖怪の仕業と思われていたことが人間の勘違いだったというおもしろおかしい話も残っています。皆さんの住んでいる地域にも残されているそんな妖怪の伝説を探してみたいはいかがでしょうか。

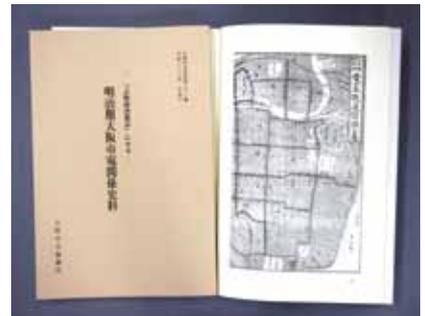
（生駒孝臣）

## ◆ 新刊のご案内

### 『大阪市史史料』第81輯「一『大阪経済雑誌』にみる一 明治期大阪市電関係史料」

大阪市史編纂所が所蔵する『大阪経済雑誌』に掲載された交通関係（特に市電関係）の記事を中心に構成しています。明治39年、市電第2、第3期線について大阪市会、経済団体、地元団体といった市内各方面でおおいに紛擾した様子など、市内の交通インフラ整備をめぐる、近代都市に変貌を遂げようとする大阪の姿が浮き彫りにされています。

本体 1,800円 送料 164円



### 『大阪の歴史』第82号

- 【主な内容】
- 武知 京三「近畿日本鉄道成立史の一断面」
  - 橋爪 節也「明治二十一年の巨獣たち  
—大阪府立博物館美術館の天井画群—」
  - 澤井 廣次「慶応二年大坂騒擾と戦時下の社会変容」
  - 横山 篤夫「大阪地方世話部『陸軍墓地二関スル書類綴』について(下)」

本体 700円 送料 164円



## 刊行物のお求め方法

大阪市史編纂所の刊行物は大阪市史料調査会で窓口・通信販売を行っています。また、下記の書店でお求めいただけます。詳しくは大阪市史料調査会（市立中央図書館3階市史編纂所内・電話 06-6539-3333）までお問い合わせください。

取り扱い書店：旭屋書店（天王寺MIO店）、ジュンク堂書店（大阪本店・千日前店・難波店）、  
ミュージアムショップ文楽（大阪歴史博物館内）、紀伊國屋書店（梅田本店）

## 絵はがきでみる昔の大阪（22）

### 大阪府立梅田高等女学校（大正7年10月）

大阪府立梅田高等女学校は、現在の府立大手前高等学校の前身のひとつです。この学校は、校名と場所がずいぶん変わった学校です。最初は明治15年（1882）に府立大阪師範学校の付属として設置された裁縫場でした。4年後の明治19年（1886）1月に女学科に改編され、同じ年の9月に大阪府女学校として独立しています。場所は大阪府北区中之島常安町じょうあんまちです（大阪市がない時代なので、大阪府北区という呼び方です）。

大阪市が発足した明治22年（1889）10月に、大阪市立高等女学校となりました。さらに明治33年には大阪市立第一高等女学校と名前を変えましたが、明治34年（1901）には、大阪府へ再移管され、名前も大阪府立中之島高等女学校となりました。この場所は手狭だったので、堂島中学校の跡地に移転しました（堂島中学校は現在の大阪府立北野高等学校です）。ところが、明治42年（1909）7月30日、北の大火と呼ばれる大火災が発生し、大阪府立堂島女学校も焼け落ちてしまいました。

そこで、今度は大阪市北区梅田町に校舎を新築し、梅田高等女学校となったのです。ところで、この大阪府立堂島高等女学校の同窓会（金蘭会きんらんかい）は私立金蘭会高等女学校を創立しましたが、その場所は梅田高等女学校の隣にありました。そのような事情で、この二つの女学校は運動会や遠足などの行事を合同で行うことも多かったようです。

絵はがきを見ますと、二つの学校の名前が書かれています。大正7年は1918年ですから今から97年前の様子で、女学生の服装なども珍しいですね。この後、大正12年（1923）に大阪城の前の大手前に移転し、大阪府立大手前高等女学校となるのです。（堀田暁生）



バイオリンを演奏する女学生

★大阪市史編纂所では、ホームページを開設し市域の歴史に関する情報を発信しています。

[http://www.oml.city.osaka.lg.jp/?page\\_id=871](http://www.oml.city.osaka.lg.jp/?page_id=871) または「大阪市史」で検索してください。

今日、大阪でどんな出来事があったかを知る「今日は何の日」、催し物や刊行物を紹介する「おしらせ」、「みんなの質問」では、全国の図書館に寄せられた「おおさか」に関する質問と回答を掲載しています。また、この「編纂所だより」のカラー版の閲覧とダウンロードも、上記ホームページより可能です。

「編纂所だより」は3月と9月の年2回発行し、大阪市立各図書館のほか、各区役所、各区民センター、市役所市民プラザ、大阪市市民サービスカウンター、総合生涯学習センター及び各市民学習センター、大阪歴史博物館、大阪城天守閣、住まいのミュージアムなどに置いています（数に限りがあります）。大阪市立中央図書館（3階大阪コーナー）及び各区の図書館では最新号を常備していますので、カウンターでおたずねください。（平成27年3月発行）